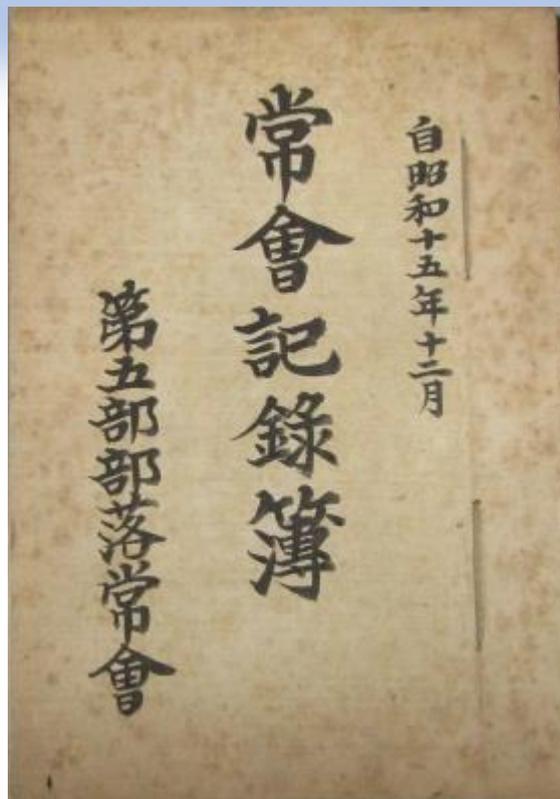


令和2年度 碧南市市史資料収蔵品展

# 大濱町常会資料から見る

## 戦時中の人々の暮らし

十二月 常會 徹底事項  
貯蓄増強ニ関スル件  
大東亜ノ建設ハ着ミト進展シツ、輝ク大東亜戦争ニ周年記念ヲ迎  
ヘマスガ敵ノ反攻ハ愈マ激シク戦局ハ深刻ノ一途ヲ出ツテ居リマ  
ス我マハ一昨耳十二月八日ノアノ感激ヲ新ニシ今こそ一人残ラス  
戦斗配置ニツイテ戦力増強貯蓄報國ニ總力ヲ發揮致シマセウ



令和2年 8月2日(日)～20日(木) 午前9時～午後9時

月曜日休館 (ただし、10日(月)は開館し、翌日休館)

会場：碧南市文化会館 (碧南市源氏神明町4) 1階 展示室 <観覧無料>

主催：碧南市教育委員会 所管：碧南市文化財課・市史資料調査室

共催：碧南市遺族連合会・碧南市福祉課

## 大濱町常会資料から見る、戦時中の人々の暮らし

令和2年8月2日(日)～20日(木)

今年には太平洋戦争終戦 75 周年を迎える節目の年となりました。戦後様々な形で振り返られてきた戦争の記憶も、戦後 75 年を迎えた令和の時代には、それを語る人々も大変少なくなっています。戦争の激しかった時期の、郷土碧南の人々の生活がどのようなものであったのか、それを語る方は 90 歳前後の方々でなければ難しくなっています。

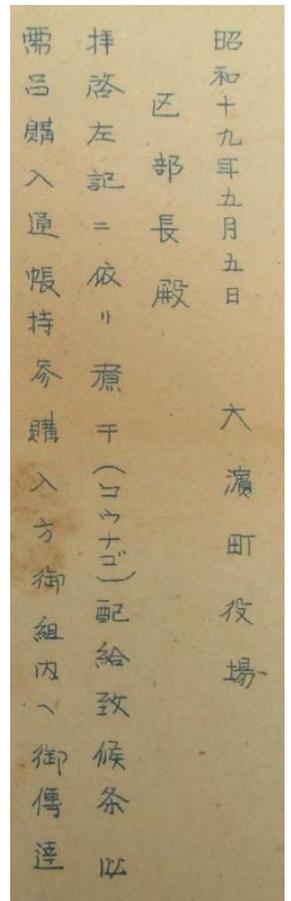


【大濱町鳥瞰図 部分：吉田初三郎画 昭和 10 年代半ば】

本年度の市史資料収蔵品展は、碧南市遺族連合会・碧南市福祉課との共催で行い、昨年度寄贈いただいた、全国的に見ても貴重な大濱町常会での配布文書など戦時資料を中心にを行います。これらの資料から、碧南の人々が国や県などから出されたどのような指示の下で生活していたのかを明らかにし、戦争が引き起こす銃後（じゅうご）と呼ばれた国民生活の苦しさや不自由さなどを見つめ直し、改めて平和な時代の尊さを確認できればと思います。

今回の展示資料の「大濱町常会」とはいわゆる町内会のことです。町内会が整備されたのは、日中戦争（昭和 12（1937）年）以降のことです。昭和 15（1940）年 9 月に内務省訓令「部落会町内会等整備要領」により、「昔からの隣保（りんぽ：となり近所）共助の美風」に基づいて、村には部落会、町には町内会が作られ、その下に隣組（となりぐみ）が置かれることとなりました。設置の目的は住民を団結させ、戦争協力への強化である「万民翼賛」を図り、国策を全国の隅々まで徹底させ、スムーズな人的物的資源の徴用と物資不足の中での経済生活のコントロールを徹底するものでした。昭和 16（1941）年から常会は全

国で定例化され、貯蓄の強要とその集金、農産物等増産の奨励、物の供出や献納、物資の配給に関する配給券の交付や配給の有無の通知など、全て常会を通じて行われ、人々が生活していく上ではなくてはならないものとなりました。



【コウナゴ配給案内】



【大濱町役場前にて 金属回収の様子】

今回、大濱町の上区区長と第五部落会の部長・納税部長を昭和 17・18 年度に務めてみえた角谷弥市氏のご子孫のお宅に残されていた常会資料等を中心に紹介し、戦時中の碧南の人々の生活を知っていただければと思います。

碧南市教育委員会 文化財課  
市史資料調査室  
TEL(0566)41-4566

〒447-0872  
愛知県碧南市源氏神明町2  
市民図書館中部分館 2階